

米国

ISM景況指数（2021年8月）

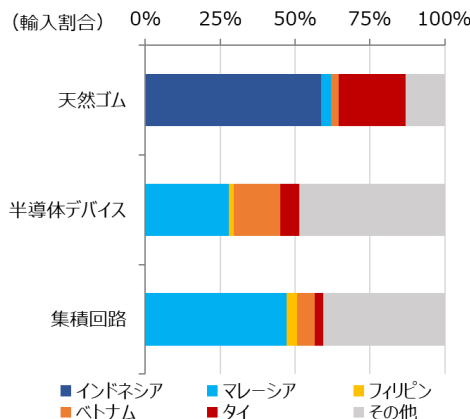
デルタ株拡大による供給制約・需要抑制が堅調な景況感のリスクに

政策・経済センター
田中 高夫
03-6858-2717

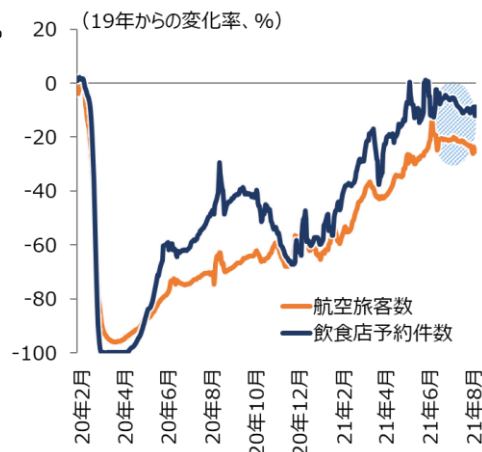
1 ISM景況指数（総合）



2 米国のASEAN5からの輸入



3 外出サービス需要（日次データ）



評価ポイント

今回の結果

- 21年8月のISM製造業景況指数は59.9と、3カ月ぶり前月から上昇した。
- 製造業指数を構成する5項目のうち、新規受注（66.7）、生産（60.0）、在庫（54.2）が上昇した。入荷遅延（69.5）は下落したものの依然高水準。一方、雇用（49.0）は50を下回り2カ月ぶりに低下に転じた。
- 業種別に見ると、繊維と非鉄を除く15業種で活動拡大を報告した。
- 8月のISM非製造業景況指数は61.7と、過去最高となった前月から低下したが、高い水準にある。
- 非製造業指数を構成する4項目をみると、ビジネス活動（60.1）、新規受注（63.2）、入荷遅延（69.6）、雇用（53.7）の全てで低下した。
- 業種別に見ると、18業種中17業種が活動拡大を報告したが、ここ数カ月強い拡大となっていた芸術・娯楽は活動縮小に転じた。

基調判断と今後の流れ

- 米国の企業マインドは、引き続き原材料や労働力の供給制約問題は続いているものの、好調な需要を背景に堅調を維持している。ただし、夏以降に国内外でデルタ株が拡大していることが懸念事項だ。
- 中国での一部主要港湾閉鎖、東南アジアでの工場の閉鎖など、供給網の要であるアジアで経済活動の抑制が強まっている。米国は天然ゴムや半導体などの原材料・部品の多くを東南アジアから調達しており（図表2）、感染が長期化すれば供給制約がさらに悪化しかねない。
- また、米国内でも8月以降に感染が再び急拡大している。ロックダウンなど厳しい防疫措置は行っていないものの、感染による欠員や採用の苦戦を訴える声が聞かれたほか、外出サービス業の需要回復が鈍化傾向にあり（図表3）、非製造業企業の景況感に水を差す可能性がある。